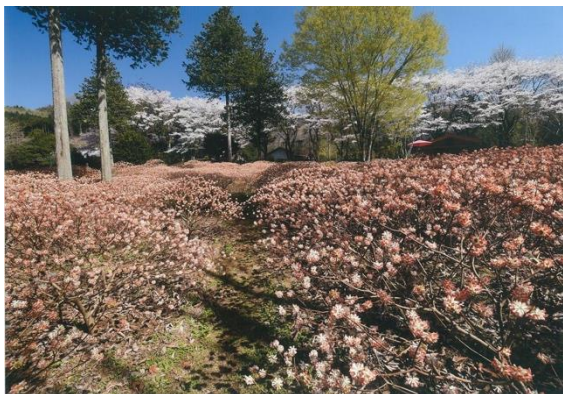


皆さん、こんにちは。冒頭に令和6年元旦に能登半島を襲った地震、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一方で今年も鹿沼市再発見観光写真コンクールを開催できたことに感謝したいと思います。昨年は長かったコロナ禍で中止せざるをえなかった鹿沼秋まつりが5年ぶりに開催されました。実に応募点数の中で3割を超える点数が鹿沼秋まつりに関するものでした。その点数の多さから皆さんが祭りを待っていたという気持ちが伝わってきました。観光写真コンクールの本質は撮影技術を競うことや奇を衒うものではありません。今まで気が付かなかったけれどこんな素敵な場所があったのかとそのシーンを見て見たいと思わせる場面ということが“再発見”という意味合いです。単にインパクトのある写真が選ばれるとは限りません。その中で文化伝承を意図した作品があったのは大きな喜びでした。また木工の街を継承する「再生の森」という作品も目を惹きました。写真の展示もその趣旨で行われます。写真をプリントして多くの人に見てもらい日頃忘れがちな地元の魅力について色々な会話をしてほしいと思います。

災害はいつやってくるかわかりません。報道を見て感じることは、写真で記録し残すことの大切さです。四季を通じた魅力ある鹿沼市、年代層を問わず多くの人が味わえるような作品を期待します。

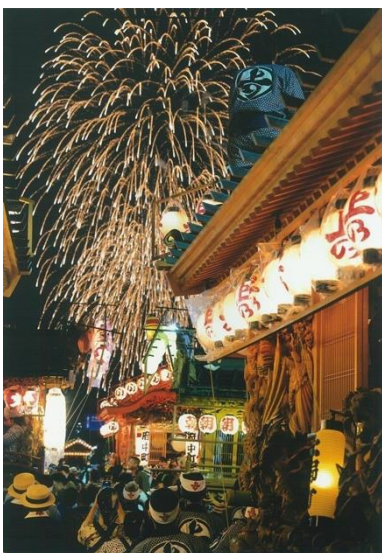
1. 推薦 鹿沼市長賞 「花の森」 福田 英二さん



上永野のアカミツマタです。正にタイトル通り森の中の一面に咲く花です。真っ青な青空と満開のアカミツマタ、それだけでなく、森の奥にはサクラの木々が帯状になり彩りを添えています。待ちわびた春が一度にやってきたという気持ちのよい作品となっています。春の貴重なシャッターチャンスをきちんと捉えられています。この場所に行ってみたいという気持ちを起こさせてくれる素敵な一枚でした。

2. 特選 鹿沼秋まつり実行委員会会長賞

「祭の華」早野 由香さん



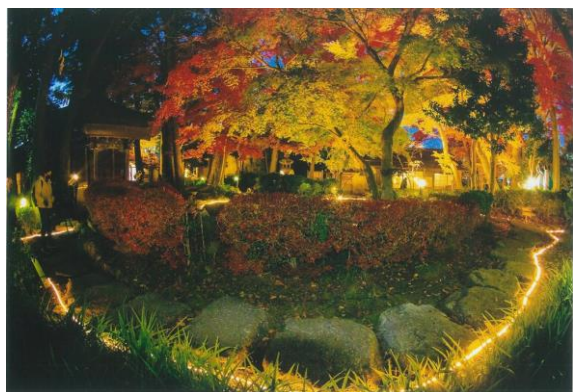
様々な祭りの写真の中で、祭りを全体的に写すのではなく花火のシーンを捉えたこの作品を選びました。華やかな花火と屋台、そして屋台にのる人の姿がきちんと捉えられ祭りの臨場感を伝える素晴らしい作品になっています。たくさんの方がいる祭りの中でタイミングよくこの場所で共に楽しみ気持ちよくシャッターを切った作者の思いが伝わる一枚です。

3. 特選 鹿沼市観光協会会長賞「夏のスペーシア号」若林 俊雄さん



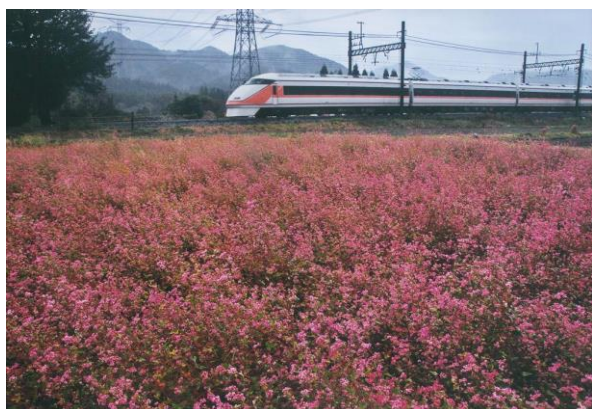
素晴らしい夏の空と雲、そして田んぼの中をいく列車です。車体にXのデザインが施されていてすぐに東武鉄道の新型の特急スペーシア X号とわかりました。作者はおそらくその走行する時間に合わせてここに立ったのだと思います。見る人に爽快感を与える作品です。ただタイトルはその「X」を意識したタイトルがより良かったと思います。このスペーシア号に乗ってたくさんの人が鹿沼を訪れてくれることを期待しましょう。

4. 準特選 鹿沼市議会議長賞 「晩秋の彩り」野川 健一さん



紅葉の掬翠園を撮った写真です。ライトアップは特に紅葉の美しさを際立たせてくれます。モミジだけでなく足元を照らした円形の線状の電飾を広角レンズでしっかり写し込んでいるのがこの作品の魅力です。また画面の左にそれを鑑賞する人の姿があり自分がそこに立っているかのような臨場感を覚えます。身近なところに良い場所があるということを示すお手本のような作品です。

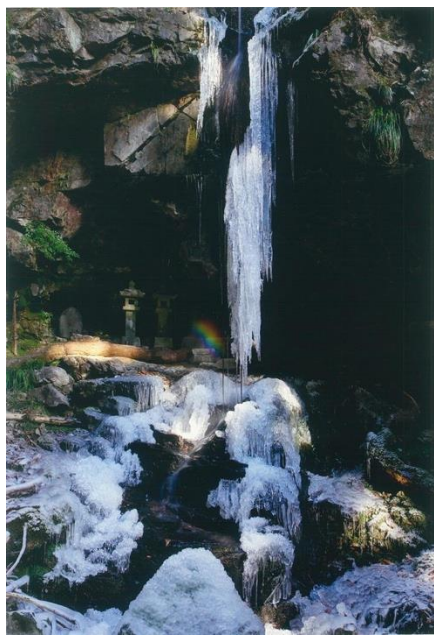
5. 準特選 鹿沼商工会議所会頭賞「満開に咲くそばの花」江川 多嘉さん



赤ソバの花畑の中を列車が走っている情景を捉えた一枚です。ソバの花というと白い花をイメージしますが赤ソバは華やかで、絨毯のように広がると華麗です。花が満開になるタイミング、晴天でない天候で影ができず全体的に優しい印象に仕上がっています。東武鉄道の入る長さが画面の2/3程度で画面のバランスを保っていて安定感があります。シャッターチャンスを着実にものにしました一枚です。



6. 準特選 栗野商工会会長賞「厳冬の不動滝」小室 均さん



正に厳冬の季節の一枚です。近年、暖冬続きで滝が氷結する機会が少なくなっていると思います。その環境の中できちんとフレーミングの中に虹も収めています。作者はこの地をよく知っていて太陽が差す時間帯を選びタイミングを狙ってこの場に訪れたと感じさせられます。熟練の技が成す一枚です。誰しもこの地にこの時期に訪れることはできる訳ではないシーン、観光写真として貴重な冬の記録をありがとうございました。

7. 準特選 鹿沼市教育長賞「伝統文化の継承」石川 貞明さん



今回の応募作品の中で特筆すべき作品です。人形浄瑠璃の発表会でしょうか。中学生たちが真剣な眼差しで上演に取り組んでいます。タイトルに伝統文化の継承とあり、作者の地元の芸能への熱き思いが伝わってきます。文化財とは人間の文化によって残された有形・無形のものうち、価値（文化的価値）を広く認められたものの総称です。多くの文化財が後継者育成の課題を持っているといえると思います。記録に残すことで、大衆に広く知らしめる意味で観光写真としての大きな意義ある一枚です。

8. 準特選 鹿沼市再発見観光写真コンクール審査委員長賞 「水辺のホタル」島田 俊男さん



6月、少し蒸し暑さを感じる初夏の夜のゲンジホタルの舞いです。まだ薄暗くなりかけのこの日、ホタルを鑑賞する人の姿が背景に写っています。ホタルの撮影というと人物を入れずに撮りがちですが、こうして人の姿が入ることにより里山を感じさせられ、撮影地の「出会いの森」という意味合いを深く思い知らされます。自然との共生を感じる一枚です。いつまでもホタルと共生できる環境であってほしいと思います。

9. 準特選 栃木県カメラ商組合長賞「見守る」長尾 元信さん



鹿沼秋まつりのワンシーンです。真ん中に一列に並ぶ子供たちの視線が舵をとる大人たちと屋台の動きを正に見守っています。祭りをこうして経験することにより、知らず知らずのうちにこの子供たちも屋台の扱いを覚えていくのだと思います。市民の中に溶け込んだ、市民の手で支えられている祭りの貴重な記録になりました。作者もその祭りを優しい気持ちで見守っているのでしょう。プリントで見せ発表することにより、さらにこの下横町はもとより鹿沼市全体の結束につながると思います。

10. 準特選 鹿沼ケーブルテレビ賞「天空の花園」坂本 行司さん



花の色と緑の色のコントラストが美しい一枚です。井戸湿原のツツジが咲く様子を、まるで天へ昇るような流れの切り取りで「天空の花園」と表現しました。真っ青な空へ花の帯が天へ向かっています。空の部分が多く入れがちなシーンですがその面積を狭くしたことにより主題である花が強調されました。初夏の爽やかなとても気持ちのいい一枚で観光写真としてふさわしい作品でした。